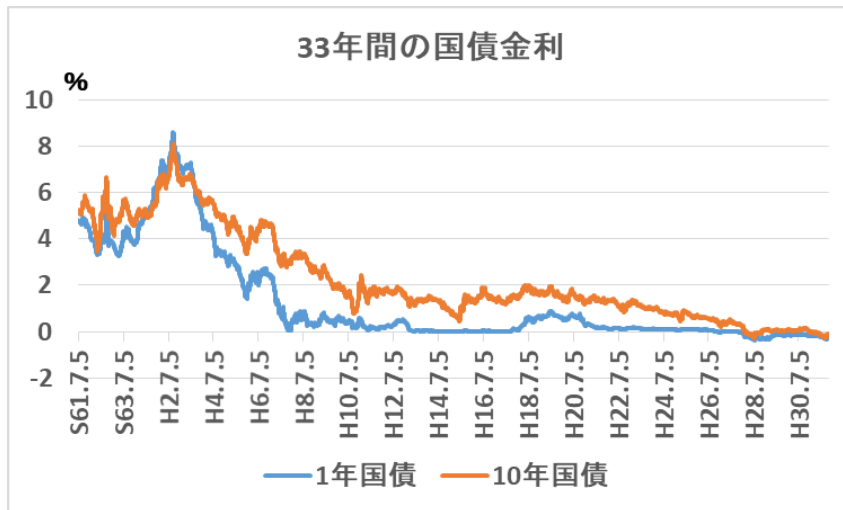


## ATTENTION

### 超低金利で、日本人が失ったものは大きい



このグラフは、昭和61年(1986年)7月から今年(2019年)10月まで33年間の1年物、10年物の国債金利の推移です。1986年には1年物、10年物とも5%前後の金利でした。その後、バブル発生による金融引き締めがあり、金利はさらに上昇し、1990年には1年物、10年物ともなんと8%を超えました。10年の国債を買えば、10年間8%の金利が保証されたのです。当時5年物金融債が8%の利回りを超え、銀行の回りにそれを求めて列をなしていたのが思い出されます。ところが、その後バブル崩壊により、金融緩和から金利は急低下。1年国債は2015年に、10年国債は2016年にマイナス金利となりました。そしていまも優にマイナス金利(1年物-0.22%、10年物-0.14%)。預金金利をマイナスにするのは具合が悪いので、預金はゼロ金利。20年以上にわたり、ほぼ金利がない状態が続くと、国民の金利感覚がほぼなくなっているといっ  
てよいでしょう。それは資産が増えるという感覚がなくなっているということでもあります。この損失は、非常に大きいものがあります。日本人の資産形成能力、ひいては日本人としての活力の問題に関わってくるからです。

## OPINION

### 新たな独立系アドバイザーの業界団体は、意味なし

日経新聞2019年11月29日朝刊によりますと、金融商品仲介業者の主要4社が独立系アドバイザー(IFA)の業界団体を来年1月に立ち上げるとのことです。その名称は「ファイナンシャルアドバイザー協会」。将来は当局から自主規制団体として認可を得ることを目指すとしています。IFAをバックアップする証券会社もこの団体に加わるそうです。

この団体の設立意義については、首をかしげざるを得ません。この記事には、「証券会社から距離を置く資産運用助言の団体」とありますが、この団体の加盟企業は、金融庁の登録簿にある通り、証券会社に所属するのです。

この記事の中に「顧客の長期的利益に資する…フィーベースの拡大を促す」とありますが、この「フィー(助言料)ベースは、助言料をもらいながら、投資信託などの手数料や信託報酬の一部も徴収することがあり、厳密な助言料のみ(フィーオンリー)とは、大きく違います。

また「ファイナンシャルアドバイザー協会」という名称は、利用者からみれば、アドバイザーを包括的に認識してしまう危険があります。フィーオンリーのアドバイザーと区別することにならないからです。利用者の立場からは「金融商品仲介業協会」という名称が正確です。

利用者にとって真に役に立つアドバイザーは、フィーオンリーの(助言料のみを収入とする)アドバイザーです。そうでない金融商品仲介業者の団体「ファイナンシャルアドバイザー協会」は、利用者にとってまったく意味のない団体といっ  
てよいでしょう。

## MARKET

	(11月末)	(10月末比)
日経平均	23,293.91円	+366.87円 (+1.60%)
NYダウ	28,051.41ドル	+1,005.18ドル (+3.72%)
米ドル	109.45円	+1.40円 (+1.30%)

## 今月の言葉

まことの富はただ魂のうちなる富だけだ。  
他のものはすべて、利益より困難をもたらす。

-ルキアノス(ギリシャの風刺作家)

## 世界最高の投資家バフェットも数々の失敗をしている

世界最高の投資家といわれるバフェットも、数多くの失敗をしています。バフェットが強調するのは、失敗から学び、それを次に生かすことの大切さ。バフェットの主な失敗とそこから得た教訓をお見せしましょう。

## 1. 11歳の時、初めての株式投資で失敗

11歳の時、5年かかって貯めたお金で、初めて株に投資したが、すぐに大きく下がり、一緒に買った姉には責められ、戻ってきたところでわずかの利益で売ってしまった。ところがその直後に急騰し、5年かかって貯めたお金を4倍上回る利益を逃した。

## ここでの教訓

- ・買った株価にとらわれすぎないこと
- ・わずかの利益を、ろくに考えもしないで確保しないこと
- ・他人のお金を投資するのは、安易にしないこと

## 2. パークシャー・ハサウェイへの投資は最も愚かな投資

バフェットは32歳の時に、株価が安いと見て繊維メーカーのパークシャーに投資した。その後パークシャーに株を引き取ってもらうことになったが、会社は約束に反して、引き取る価格を下げてきた。怒ったバフェットは、パークシャーを反対に買収してしまった。結局は20年後繊維事業を閉鎖することを余儀なくされた。バフェットは、この“復讐”は2000億ドルの損失に値したといっている。

## ここでの教訓

- ・何でも安ければいいというものではない
- ・投資判断は、あくまで冷静にすべき

## 3. ウォルマート株の買いを渋った失敗

1998年ウォルマート株を大量に買うつもりで、指値を入れた後、少し上がってしまったので、買うのをやめた。この「指をくわえた」のが高かった。その後株価はどんどん上昇し、100億ドルの利益を取りそこなったという。

## ここでの教訓

- ・本当にいいと思ったら、勇気を出して一気に買う

## 4. 初めてのハイテク株、IBM投資の失敗

2011年からIBMを買い始め、2016年には筆頭株主になった。そのIBMを2017年に全部手放した。バフェットはこう答えている。「IBMはもう少し早く事業構造改革を進ませると踏んでいたが、期待したように運んでいない。」

## ここでの教訓

- ・企業の先行きを読み間違ふことは誰にもある。打率10割はあり得ない。

## 5. アマゾン・グーグル(現アルファベット)を逃した失敗

これらに投資しそこなったことをこうバフェットは悔しがる。「ここまで成功するとは思わなかった。新しいテクノロジーの企業で勝つ企業を見つけ出すのは難しい。」

## ここでの教訓

- ・経営者やビジネスの真の実力を見極めるのは難しい。

バフェットは89歳のいまでも進歩し続けています。それは失敗を糧にしているということでもあります。謙虚に失敗に学び、それを生かして成功を多くし、最大の成果を取り込むことにバフェットの驚異のパフォーマンスの源はあるといえるのです。

## OUR SER-

## まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。
- 金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様からいただく投資助言料だけを収入として、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお勧めするのではなく、お客様にもっとも適した金融商品をお勧めし、お客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、お客様の分身であるお金の健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス  
代表 尾藤 峰男

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス  
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386  
携帯：070-5567-3311

FAX: 050-3156-1072  
電子メール：info@bfsc.jp